

2024年3月25日発行

# アグリ筑西 2024年 春号

いよいよ春本番です。新年度も  
よろしくお願いいたします。

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター)  
筑西地域農業改良推進協議会 発行  
Tel : 0296(24)9206  
Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

## シリーズ「農業経営者に訊く」Vol.5



倉持ファーム株式会社 代表取締役

倉持 昌司さん (下妻市 水稻+小麦)

幼少期から祖父や父が作業する様子を間近で見てきた倉持さんは、農学部に進学し、稲作の知識や技術を身に付け、大学卒業後、父のもとで農業に従事し始めました。現在は会社の代表として農作業と経営の全般を担っており、両親と農学部で出会った妻の淑子さんとともに家族4人で営農しています。

### ●経営の概要について教えてください。

水稻と小麦を組み合わせた大規模土地利用型農業を営んでおり、R5年作付は水稻50ha、小麦50haで、作付け面積は年々拡大しています。稲作の特徴としては、疎植栽培が挙げられます。これにより面積当たりの株数が減り、生産コストや作業負担の軽減に繋がるうえ、稲が大きく育つことで、1株から穫れる収量が増加し、さらに風通しもよくなるため、病気のリスクも低下します。

また、無人ヘリを所有しており、作業負担の軽減と作業時間の短縮で効率化を図っています。

### ●法人設立について教えてください。

規模拡大していく中で両親の高齢化もあり、人手不足を感じつつありました。そこで従業員の雇用を見据えた法人化を目指して、茨城県農業参入等支援センター事業を活用することに決めました。中小企業診断士、社会保険労務士、司法書士といった専門家の派遣を受け、令和4年7月に倉持ファーム株式会社として法人化しました。

### ●今後の取り組みについて教えてください。

法人化をしたことにより、経営主としての自覚が増し、「働きやすい職場環境整備のためには従業員に対してどんなことができるか」を日頃から考えるようになりました。雇用確保に向け、就業規則を作成し、茨城就農コンシェルでの求人を開始しました。また、茨城県よろず支援拠点から、インターネット版ハローワークの登録支援を受け、求人を開始、SNS活用についてもアドバイスを受けました。

今後は、私たちと従業員それぞれが経験を積み、成長し続けることができる組織にしたいです。



妻の淑子さんと共に挑む農業経営



無人ヘリ整備の様子

貴重なご意見を訊かせいただきありがとうございました。これからも農業経営者として地域を牽引していきましょう。

4月から  
義務化

## 労働者を雇い入れた時の教育

事業者が労働者を雇い入れた時には、「労働者が新たに就く業務において安全に作業を行うために、必要な知識や技能を習得させる」必要があります。令和6年4月1日より農業においても義務化されることになりましたのでお知らせします（労働安全衛生法第59条第1項）。

### 【雇い入れ時に教育が義務付けられている項目】

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| ①機械、原材料などの危険性、有害性、取り扱い方法 | ⑤発生の恐れがある疾病の原因と予防 |
| ②安全装置や保護具の性能、取り扱い方法      | ⑥整理整頓と清潔保持        |
| ③作業手順                    | ⑦事故時の応急措置と退避      |
| ④作業開始時の点検                | ⑧その他の必要事項         |

## 管内での事例（「作業手順」の教育）

上記に示した雇い入れ時に教育が義務付けられる項目のうち、③作業手順の教育について、当普及センター管内で実践している農業経営の事例として、筑西市の島田農園で、代表を務める島田智之氏の取り組みをご紹介します。



島田農園 代表

### 島田 智之さん（筑西市）

島田さんは、筑西市で、こだまスイカ120a、抑制トマト100a、ネギ36a（うちハウスネギ16a）、ハウスカボチャ22a、水稻500a作付しています。労働力は、家族4人に加え、常時雇用1名、技能実習生2名の計7名で経営を行っています。

経営理念として、「自分が納得し、満足する人生・仕事をしたい。自分だけでなく、家族・従業員も充実した生活を送る。」を掲げ経営改善に取り組んでいます。

### ●常時雇用の導入

これまで家族のみで経営を行っていましたが、毎日栽培管理に追われ休日を確保するのが難しくなっていました。そこで、「週1日以上以上の休日を確保」を目標に2022年（令和3年）より、常時雇用を導入しました。

常時雇用の導入にあたり、不安事項の一つに「管理作業の統一」がありました。管理作業は、家族間でも少しずつ作業の方法が異なります。そこで、こだまスイカと抑制トマトの2品目について「作業マニュアル」を作成し、事前に作業内容について学習し、その後も振り返りができるように整備しました。

## ●作業マニュアルの作成と活用

作業マニュアルの作成は、普及センターと協力して行いました。写真やイラストを多く盛りこむことで、言葉だけでは伝わりにくい現場の様子が分かるように、工夫して作成を行いました。

令和6年4月からさらに1名を雇用するため、事前資料として活用しています。

(4) つる引き  
ツルが繁茂した際に、トンネル内に取めるため、伸びたツルを丁寧に折り返す。  
① 子づるの厚をそろえて持ち、つるが U の字を描くように手動に折る。(図 6)  
この短いツルは内側に、長いツルは外側になるようにそろえる。

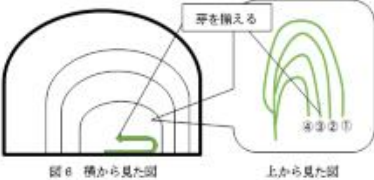


図 6 横から見た図 上から見た図

(5) 受粉  
着果率を上げるため、その日咲いた雄花の花柄のみを使う。めしべ糸袋に、均一にたっぽりと花粉を付けることで、品質の良いこだまスイカになる。  
① 当日開花した雄花を摘み取る。(写真 13, 14, 15, 16, 17)  
② 雄花の花弁を剥く。  
③ 雌花のめしべ糸袋に花粉がつくように、雄花のおしべをこすりつける。  
④ 雌花の根元に植物成長剤を付ける。(写真 18)  
⑤ 交配目が見えるように、雌花の下に紙を挟む。  
⑥ 雌花の根元に構図がある場合はとる。(写真 19)




写真 13 雄花(左)、雌花(右)  
写真 14 当日咲いた雄花 写真 15 前日咲いた雌花 写真 16 雌花 写真 17 雌花  
写真 18 植物成長剤を付ける位置 写真 19 構図

(6) 皿敷き  
皿の上にスイカを正座させることで、変形を防ぐことができる。  
① 直径 10 cm ほどまで成長したスイカを、茎の部分を持って持ち上げる。  
(このころのスイカは、傷つきやすいため、葉を直接触らないように茎の部分を持つ。)  
② 皿の上に乗せると正座させる。(写真 20, 21)




写真 20 皿 写真 21 作業前 → 茎をつかみ持ち上げる → お皿に正座させる

(7) 玉直し  
スイカは日が当たると、色がつく。そのため、収穫時にスイカを横に倒し、下になっていた部分にも色を出す  
① スイカの色がつかない部分に、日が当たるようにスイカを横に倒す。この時、つるが外れないように注意する。(写真 7)

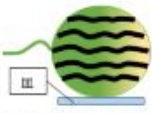


図 7 玉直しをしたスイカ

5 収穫  
(1) 収穫  
① 交配目につけた目印を基に、収穫する果実を見つける(写真 22)。  
② ツルを果実側に残して、根元からツルを手で折り取る(写真 23)。  
③ 収穫後果実は通路に置く(図 8)、通路までの距離が長い時には 2 人 1 組で行う(写真 24)。  
④ 一週り収穫が終了した後、コンテナを乗せた一輪車を使って果実を果実が場に運ぶ(写真 25)。




写真 22 交配の目印 図 8 収穫位置 写真 23 収穫後の様子  
写真 24 作業の様子 写真 25 納屋に運ばれたスイカ

## こだまスイカ作業マニュアル(一部抜粋)

作業マニュアルでは、写真や図説を交え、こだまスイカの育苗、定植、収穫、出荷などの工程ごとの作業手順が記載されています。

## ●今後について

作業マニュアルは、内容について今後も検討を重ね、より分かりやすいものへ改良をしたいと考えています。また、前述したように、令和6年4月から新たに従業員として加わる方は、将来就農することを希望しています。その方が就農後、安定した経営を行えるよう、「栽培」に特化した、マニュアルの作成を行っています。



# 昨年産の水稻の種子は、休眠が深い可能性があります！

令和5年産の水稻種子は、登熟期間の高温の影響で、例年より休眠がやや深い傾向にあり、出芽の遅れやばらつきが発生する可能性があります。

そのため、浸種日数が通常より1日以上多く必要になる場合があります。浸種の際にはこまめに種子の状態を確認し、ハト胸程度になってから播種するようにしてください。

なお、高水温で浸種すると出芽がばらつくおそれがありますので、浸種水温は10～15℃程度としてください。

図 浸種した播種の播種適期

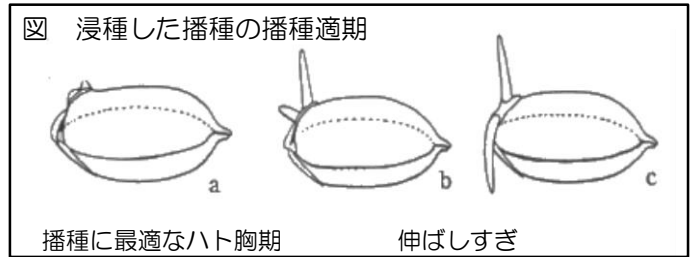


表 主要な主食用品種の浸種の目安

品種	通常の浸種方法		令和5年産種子の浸種方法
	浸種積算温度	浸種日数 (水温10℃の場合)	
コシヒカリ	120℃	12日間以上	必要に応じて、左記の日数より1日以上多くする。
ふくまるSL 一番星			
にじのきらめき	120～135℃	13日間以上	
ゆめひたち	110℃	11日間以上	
月の光	100℃	10日間以上	
その他主食用品種			

## ナシの春先の管理について

### 花粉の確保



輸入花粉の入手、使用ができなくなったため、計画的に花摘みを行い、花粉の確保に努めましょう。

「新興」、「松島」等の受粉樹が不足している場合は、「豊水」で着果させない部分（予備枝、主枝先端、側枝先端、下芽等）から花を取る方法もあります。なお、長期的な対応としては、受粉用品種の苗木導入を進め、花粉を毎年安定して採取できる体制を整えましょう。

←写真 花摘み適期の花そうの状態

### 人工受粉

高品質安定生産のためには、発芽率の高い花粉をたっぷりと柱頭に付着させることが望ましい管理になります。次年度への貯蔵花粉確保も想定し、できるだけ多くの花粉を確保しましょう。

### 気象災害対策



晩霜害及び降雪害への注意が必要な季節に入ります。

多目的防災網を開花前に展張することで、晩霜害程度の軽減、降雪害の回避が期待できますので、遅れずに実施しましょう。但し、降雪が予想される場合は果樹棚の倒壊を防ぐよう対応します。

また、低温に遭遇してしまった際には、遅れ花への受粉も行い、粘り強く受粉を続けましょう。

←写真 晩霜害を受けて黒変した雌しべ